

iコンピテンシールーブリック（地歴公民）

自分に最もよくあてはまるものを、1～4のうちから1つ選んでください。

iコンピテンシー

			1 不十分である	2 やや不十分である	3 おおむね身につけている	4 十分身につけている	
I 情報分析活用 力	I-4	16	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、その特徴を的確に言語化して表現することができる。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に関する資料やデータの収集する手段が身につけておらず、資料やデータから読み取れる内容を表現することができない。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に関する資料やデータを、インターネットや書籍などで収集することができるが、その読み取り方は断片的で適切な表現となっていない。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に関する資料やデータを、いくつかの方法で収集することができ、その資料から読み取れることを表現することができる。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に関する資料やデータを、複数のインターネットのサイトや書籍など様々な方法で収集し、その信ぴょう性を踏まえながら、その資料から読み取れることを的確に表現することができる。
II 論理的思考 力	II-1	2	歴史的・地理的事象や現代の諸課題の全体の構成をとらえ、結論を判断することができる。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題の全体の構成を大まかにつかむことができない	歴史的・地理的事象や現代の諸課題の全体の構成をとらえることはできるが、結論を導き出すことは苦手である	歴史的・地理的事象や現代の諸課題の全体の構成を正しくとらえ、結論を導き出すことができる	歴史的・地理的事象や現代の諸課題の全体の構成を正しくとらえ、そこから誰もが納得できる結論を導き出すことができる
	II-2	7	他者の主張に対して、歴史的地理的事象から考察した根拠に基づき誤りの有無を判断することができる。	他者の主張に対して、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき誤りの有無を判断することが難しい	他者の主張に対して、誤りの有無を判断することはできるが、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づきその根拠をはっきりと説明することができない	他者の主張に対して、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき根拠をあげて誤りの有無を判断することができる	他者の主張もふまえながら、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき根拠をあげて誤りの有無を説明することができる
	II-3	12	自己の主張に対して、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づく適切な根拠を示すことができる。	自己が主張したいことについて、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき必要な根拠を示すことが難しい	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき自分の主張を説明することはできるが、反論に対して、自らの主張の正当性を主張することができない	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき根拠を示して自分の主張の正当性を説明することができる	歴史的・地理的事象や現代の諸課題にきちんと裏付けられた根拠をもとに、自分の主張の正当性を説明することができる
	II-4	17	「比較する」「言い換える」「たどる」ことで、筋道を立てて自分の考えを組み立て結論を導くことができる。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき、筋道を立てて自分の考えを組み立てることができない。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき、自分の考えを筋道を立てて組み立てようとするが、説明することが難しい。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき、自分の考えを筋道を立てて説明できる。	歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき、自分の考えを「比較する」「言い換える」「たどる」ことで、筋道を立てて自分の考えを組み立て、結論を説明できる
	II-5	22	歴史的・地理的事象や現代の諸課題における「結論」から、それに至った「理由」、そして過去、もしくは現在における「具体例」という順序で話すことができる。	人に説明するとき、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき結論は述べることはできるが、その理由や具体例まで話すことはできない	人に説明するとき、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき、結論とその理由を述べることはできるが、その具体例まで話すことはできない	人に説明するとき、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき「結論」から「理由」そして「具体例」という順序で話すことができる	人に説明するとき、歴史的・地理的事象や現代の諸課題に基づき「結論」から「理由」そして「具体例」という順序で話し、相手を納得させることができる
III コミュニ ケーション 力	III-1	3	周囲の雰囲気を感じ取り、発言しやすい環境を自ら率先して作り出す。	相手の話を聞くことができず、相手の発言に対してうなずきやあいづちをすることが難しい	相手の話を聞くことはできるが、相手の発言に対してうなずきやあいづちをすることが難しい	相手の発言に対して、うなずきやあいづちをしながら話を聞くことができる	会話のスピードを相手に合わせ、相手の話を要約して繰り返すことができる
	III-2	8	自分と相手の考えの共通点・相違点を発見し、論点を明確にして話し合うことができる。	話し合いの際に、自分と相手の考えや共通点を発見したり、論点を明確にすることができない	話し合いの際に、論点は明確にできるが、相手の考えの状況や背景を把握して発言できない	話し合いの際に、論点に対して相手の考えの状況や背景を把握したうえで発言できる	話し合いの際に、お互いの考えの共通点・相違点を発見し、論点を明確にして話し合うことができる
	III-4	18	伝えたい内容・相手に応じて正確に効果的に伝えることができる。	話し合いをした後、相手に何が伝わったかを確認しない	話し合いをした後、相手に何が伝わったかを確認できる	相手の知識や理解度を把握しようとしており、数字や比較や5W1Hを取り入れた説明をすることができる	相手の知識や理解度を把握したうえで、内容をよく検討して正確で効果的に発表ができる
IV 自律的 に行動する 力	IV-5	24	ルールやマナーを守り、授業や課題に自律的に取り組もうとする。	授業中に別のことをしたり、居眠りをしたり、課題を答や他者のものを写したりすることがある。	授業中に居眠りをするなど、周囲に不快感を与えることがある。	ルールやマナーを守って、授業や課題に自ら取り組んでいる。	ルールやマナーを守って、授業や課題に取り組む、疑問に思ったことは自ら調べたりしている。
V 垣根を越 える力	V-1	5	考査や小テスト・課題にあたるのに、自分の限界に挑戦しようとする。	テスト勉強や課題に取り組む時、難しいと感じたことを途中であきらめてしまうことが多い。	テスト勉強や課題に取り組む時、難しいと感じたことをあきらめてしまうことが時々ある。	テストや課題に対して、短い期間であれば、短期集中的に自分の限界に挑戦することができる。	テストや課題に対して、自分の限界に挑戦し、常にベストを尽くす。
	V-3	15	大学受験にとらわれることなく、関心・意欲をもって取り組み、自らの知識・教養を高め、視野を広げようとする。	受験に直接関係のない科目と考えると、平素の取り組みをおろそかにすることが多い。	受験で点数をとることにとらわれ、授業で興味をもったことを自ら調べたりすることがない。	受験に出る出ないに関係なく、授業で興味をもったことを自ら調べたりすることがある。	授業の外でも、インターネットや新聞、読書などによって、自分の知識・教養や視野を広げようとしている。